

## 中間評価（ステージゲート審査）結果

- 研究課題名： Brain-Machine Interface を用いたテラーメイド・ニューロリハビリテーション
- 研究代表者： 笠原 和美（産業技術総合研究所 人間情報インタラクション研究部門 主任研究員）
- 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題は、一人ひとりの脳の特徴に合わせた Brain-Machine Interface を開発し、リハビリテーションの治療効果の個人差を改善できる「テラーメイド・ニューロリハビリテーション」を目指すものである。フェーズ 1 では脳波と fMRI の同時計測が実現できてデータとして分析できており苦労が実りつつある。フェーズ 2 では BMI と振動をツールとして、リハビリテーションやトレーニングに活用するということで、たいへん野心的であると思われる。今後、紆余曲折があると思われるが、アジャイルにいろいろな着想を取り入れながら乗り切っていただくことを期待する。

以上